

会社概要

社名	株式会社猪俣産業【日高市】		
代表者	猪俣 利雄	業種	土木工事業
従業員数	15人	URL	http://www.kk-inomata.co.jp/
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日高市周辺の公共土木工事(上下水道、河川工事、舗装工事など) ・コンクリート等のリサイクル事業 など 		
沿革	<p>昭和47年:代表取締役猪俣忠雄が有限会社猪俣産業を設立</p> <p>平成3年:組織変更により株式会社猪俣産業とする</p> <p>平成4年:リサイクル施設リメイクプラント部を創設(プラント事業を開始)</p> <p>平成10年:現社長の猪俣利雄が代表取締役に就任</p> <p>平成25年:ソーラー発電事業を開始</p>		 <p>事業所の外観</p>

「経営革新計画」に取り組んだきっかけ

＜当時の課題＞

○土木工事とリサイクル工事のいずれも公共事業への依存度が高いため、繁閑の差が大きい上、繁忙期は労務費の上昇や人手不足の影響を受けやすい状態にあった。

○リサイクル事業における廃材の受け入れ量が少ないため、リサイクル施設の稼働率が低い状況であった。

＜解決への道筋＞

○これらの問題を解決するために、既存の設備や体制で売上を伸ばすことが可能なリサイクル事業を拡大し、閑散期の売り上げの底上げを計画した。

○リサイクル施設の稼働率を高めるために、近隣他市・他県などを新たな営業地域として積極的に新規開拓をする計画を立てた。

「経営革新計画」のテーマと概要

テーマ	販売促進とサービス向上によるコンクリート等リサイクル事業の拡大
計画期間	平成29年10月～令和3年9月（4年計画）【平成30年3月承認】



「経営革新計画」の実践

1 看板の設置

○圏央道の狭山日高ICと鶴ヶ島IC付近に屋外広告看板を設置し、集客を図った。計画時は両ICを利用する近隣の事業者をターゲットにしていたが、実際には栃木県や群馬県といった遠方の事業者が看板を見て「当社で廃棄物を処分して、荷物が空(から)の状態です」帰社するという想定外のニーズが生まれ、遠方の顧客を獲得することが出来た。

2 事務所窓口のレイアウトの工夫

○廃コンクリート・アスファルトガラ等の受け入れに関しては、プラント事業部に女性社員を配置すると共に、事務所に季節感のあるポスターなどの装飾を施し、キャンディを置くなどのおもてなしにより、顧客と気さくにコミュニケーションを取れるよう工夫することで顧客との関係性の強化に取り組んだ。

3 プラントの所長との連携体制

○業界経験30年の所長が新規事業を推進し、計画実行の中心役となっている。岡元専務が毎週工場を訪問し、所長を中心とするプラント事業部の社員と定期的にミーティングを行うことにより、売上実績などを共有しながら目標の達成を目指した。

○所長は豊富な経験を活かし、プラントへ来場した新規顧客に対して、受入材の種類によりそのつど適正な単価を提示するといった柔軟な対応をとれることが顧客に好評であり、売上の増加へつながっている。



お客様をおもてなし



ミーティングの様子

「経営革新計画」の成果

○屋外広告看板設置による新規顧客獲得が功を奏しており、計画期間において売上高86.9%増、付加価値額47.8%増、経常利益88.1%増と、大幅に実績を伸ばすことができた。

○新規事業の担当者としてダンプ運転者1名の雇用を創出した。さらに、計画期間の終了後ではあるが、令和4年度において新入社員を2名採用した。

○プラントの稼働率は55～60%となり、目標を達成した。

○これまでは、公共工事が主な事業であったが、民間を意識した体制を整えることで従業員のサービス業としての意識が高まり、顧客とより良い関係性をつくることできるようになった。また、プラントの新規顧客には施工業者も多いため、繁忙期に工事を依頼することで人手不足の問題も解決することができた。

○顧客サービスを向上させることで顧客の満足度が上がり、競合に対する優位性も高めることができた。また、新たな地域への営業を行うことで顧客数の増加にもつながった。

成功の秘訣

○社内環境や雇用制度などを整えることによって、所長のような資格・経験を持つ熟練社員が、長く働きやすい職場づくりを目指している。

○創業から50年の実績を通して培ってきた経営陣の人脈および人徳による信頼性。

○実行段階では、役員を中心とするトップダウン型の体制をとったことで、社員がレスポンスよく活動することが出来た。社長があらかじめ何をやるべきかを明示することにより、社員は目標の達成や課題の解決に向けてどう動くべきかが明確になり、岡元専務を中心にスピーディーに実行へ移すことができた。

○代表は日高市商工会会長でもあり、行政から発信される情報に敏感である。以下に掲げる取り組みなどを行い、ポスター等で認定状況を掲示することで、来社された方へのアピールもしており、新規事業の推進にもつながっている。

「経営革新計画」に取り組んでよかったこと

○経営革新にとどまらず、組織として色々な分野に対し積極的に参画するようになった。

※主な参加内容： H.29.10.25 「埼玉県シニア活躍推進宣言企業」認定 H.30.1.25「彩の国ロードサポート団体」認定 H.30.5.1 「埼玉県チャレンジ経営宣言企業」登録 R1.10.16「」多様な働き方実践企業」認定 ～ R3.4「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」認定 R3.2 「ISO14001」取得 R4.7 「埼玉県SDGsパートナー」登録等。

これから「経営革新計画」に取り組む皆様へメッセージ

○同じ業界での経験がある中小企業診断士の先生をご紹介いただき、スピーディかつ適切なアドバイスを戴くことができました。それには偏に日高市商工会の経営指導員をはじめ、スタッフのみなさんの御配慮と協力があったからこそ、ここまでたどり着くことが出来ました。地元の中小企業をはじめ、あらゆる分野・業種を把握している心強い存在なので、何でも気軽に相談されることをお勧めします！



幅広い分野にも積極的に参画



モデル企業指定式